

教科	工業		科目	デザイン実践	単位数	2単位	学年	1 学年
学科	繊維デザイン科	コース		教科書	デザイン実践（実教出版）			
副教材								
学習 目標	1. デザインについて社会や生活との関係を理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. デザインにより解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。 3. デザインによる豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。							

		学習内容	学習活動・学習の狙い	評価の観点			備考
				知技	思考表	主体	
1学期	4月	第1章 工業におけるデザイン 第1節 工業とデザイン 第1 デザインの始まり	・全ての人間の営みの中に「デザインする行為」が見いだされることに気づき、デザインへの理解を深め、関心を高める。	○	◎	○	・デザインに関する一般的な認識と専門的な認識の相違に気付かせ、関心を高めるよう留意する。
	5月	第2節 デザインの領域 第1 ビジュアルデザイン	・ビジュアルデザインが文字や記号など、人間の伝達行為の中に位置付けられることを理解する。	○	◎	◎	
		第3節 工業製品の企画と計画 第1 マーケティングの意味 第5 製品企画・製品化計画	・消費者の傾向やユーザーの趣向、市場などの調査をもとに、デザインのプロセスがあることを理解し、デザインから造形への流れを具体的な作業手順を通じて理解する。	○	◎	◎	
	6月	第4節 ニーズとデザイン 第1 顕在ニーズと潜在ニーズ 第5節 組織と進行管理	・デザインすることが求められることは何か、様々な人のニーズについて理解を深める。 ・企業が行うデザイン業務について理解する。	○	◎	◎	
	7月	第2章 デザインと創造活動 第1節 造形活動とデザイン 第2 デザイナーに求められる力	・デザインから造形への流れを具体的な作業手順を通じて理解する。	○	◎	◎	・デザインが周囲の事象への細やかな観察や制作上の技術的な工夫から出発することが理解できるように留意する。
		第2節 デザインと創造	・デッサンやデザインの体験をもとに「観察力」「表示・表現力」「発想力」を身に付ける。	○	◎	○	
	8月	第1 新しい状況 第2 発想のプロセス	・具体的なデザインの過程をたどることで、デザイン的な発想の中に見出される様々な要素や考え方を理解する。	○	◎	◎	・実技体験を常に新しい知識や思考に繋がられるように留意する。
2学期	9月	第3節 観察と表示 第4 創造と想像 第4節 形態と構成の原理 第1 観察から表示へ 第2 表示から表現へ	・デッサンの具体的な過程を通じて、観察から表示へ、表示から表現へのつながりを体験的に理解し、デザイン上の諸効果との関連を理解する。	◎	◎	◎	
		第5節 平面構成 第1 表現の技法	・平面構成の基本的な表現技法を理解する。 ・具体物や幾何学的な構成の過程を通じて、画面構成の考え方や効果的な手法について理解し、身に付ける。	◎	◎	◎	
	10月	第6節 立体構成 第1 立体構成の意義（幾何学的構成）	・立体構成の基本となる材料や表現技法を理解する。 ・具体物や幾何学的な構成の過程を通じて、立体構成の考え方や効果的な手法について理解し、身に付ける。	◎	○	◎	
	11月	第7節 色彩 第1 色彩とは	・色と光の関係について理解する。 ・光のスペクトルの理解から、単一色とその混合の原理を理解する。 ・色の3原色及びその混色の方法とその効果を理解する。	◎	○	◎	
	12月	第8節 人間要素 第2 人間の心理	・人間の感覚が、色や形態から様々な刺激を受けていることを理解する。 ・行動の動機となる人間の欲求について考え、その対象や欲求の段階について理解する。	◎	○	◎	・実際に色彩構成を行うことでそれぞれの知識を実感できるように留意する。
3学期	1月	実技1 平面構成1	・各種の色名を知り、その使用法を理解する。	◎	○	◎	
	2月	実技2 平面構成2	・各色が持っている一般的なイメージを知り、その感情や連想の効果を理解する。	◎	○	◎	
	3月		・各種の色彩対比の方法の違いを理解する。	◎	○	◎	

※ 評価の観点欄は、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。

評価方法	・ 考査評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などの総合評価とする。 ・ 平常時の授業態度、意欲等の授業に対する取り組みについても評価する。
------	---